

糖尿病などの壊疽に新治療法

日本医科大学のグループは、糖尿病などが原因で起きる重症の壊疽（えそ）の新しい治療法を開発した。医療用の無菌ウジを使って死んだ組織を除去した後、皮膚を移植する手法を組み合わせた。皮膚移植で治らなかった患者で効果を確認した。足の切断という治療法を避けられる可能性がある。

開発したのは宮本正章助教、水野博司助教ら。無菌ウジを使った治療法は「マゴットセラピー」と呼ばれ、欧米のほか国内でも始まっている。ウジが壊死（えし）した組織だけを取り除く。ただ重症だときれいに治るまで一年以上かかることもあるが、今回は人工皮膚や患者自身の皮膚を移植するため、傷口が覆われるので二―三カ月で治り、再発の可能性も低くなる。皮膚移植に失敗した患者十人にマゴットセラピーを施してから皮膚を移植し直したところ、九人が治った。